茨城県被災地取材②

青年部広報委員会による、3月11日の東日本大震災で被災した県内保育園の状況取材第2回目は、茨城県で唯一津波の被害をうけた大洗かもめ保育園である。

大洗かもめ保育園は沿岸部に位置し大洗港ターミナルに隣接している。

大洗町は震度5強の強い揺れとともに4.9mの大津波が町を襲い、特に沿岸部に大きな被害を受けた地域である。震災から半年がすぎ、町は平常を取り戻したように見えた。

園に到着すると江橋喜久雄園長先生が対応してくださった。震災当時、6歳児は園庭で保育、5歳児、4歳児はホールで、3、2、1歳児は各教室でお昼寝中だった。

園長先生から話を聞く様子

ホール内にも水が入り布団も水没した

大地震発生と同時に、子ども達は保育士の避難指示のもと自ら布団に包まりだんご虫の状態になり、机の下やロッカーの中に避難し約3分間そのままの状態でゆれが収まるのを待った。その後全員各クラスの非常口から園庭に裸足のまま避難した。町災害対策本部から大津波警報の無線放送が断続的に放送されている。そうしているうちに保護者が続々と子ども達を迎えに来て、大津波警報が出ていることや船の汽笛がボーボーと何度も鳴っているのは津波の警報だと口々に教えてくれた。午後3時を過ぎて園外の高台に避難することを決定し、まず、目標として子ども達が地理に詳しくいつも遊んでいる役場前大洗文化センターの高台を目指せと指示をした。文化センター前に到着した時、ちょうど当日の予定を終えた町福祉バスが駐車場に戻ってきた。危険を察知し全員の子ども達と職員119名を乗せ磯浜小学校へ避難させた。園長は全員の保育園からの避難完了を

園庭はヘドロと流れてきたゴミでいっぱいに

確認して役場の避難場所へ向かい、そこで全員がバスに乗り込んでいるのを確認してから保育園へ引き返し、各部屋に鍵をかけ盗難防止の対策をおこなった。迎えに来た保護者へ避難場所を伝えるために「全員磯浜小へ避難いたしました.園長」と2枚記して窓と門扉に貼り、避難した。保護者に引き渡しが終わったのは９時過ぎだった。

ヘドロまみれになった給食室

次の日、保育園の状況を確認に行くと、園舎の外70cmに津波の水位があり園庭や園舎周りはヘドロの堆積や港湾で使用する荷揚げパレット・堆肥袋・瓦礫が大津波によってアルミフェンスを突き破り保育園になだれ込んで足の踏み場も無い状態であった。

応急処置で止まっているフェンス

園舎玄関に入ると何故か避難する前の状況であり、ドアゴムパッキンが働いて水の浸入を食い止めた様である。室内に入ると、ホールは半分の面積に海水が入りお昼寝布団は水浸しであった。保育室の状況は、乳児室と1箇所の保育室は被害が無く、他の5保育室・事務室・給食室・教材倉庫やトイレ・給食室の排水管などがヘドロで冠水した。被害状況は、園舎外部フェンス・高圧キュービクル・エアコン室外機・生ゴミ処理機・避難車・お散歩車・木製フェンス等が大津波により水没損壊した。

職員の自家用車もすべて水没した。

その後地域の方々、保護者のお手伝いにより23日から保育園を再開する。

今回の震災では、地域の方々の援助がなければ保育園再開は遅くなっていたと園長先生は話していた。

震災後いつでも避難できるように各クラス前と園庭に避難車を準備

まだ修理していない箇所の工事については、町の防災基準の見直しによっては、今後、現在の場所での保育事業が困難になってしまう為、高台移転も踏まえ工事を見合わせているという。早急な町の対応が望まれる。

※この文章は平成２３年８月３０日に取材した時の文章です

〒３１０－８５８６　水戸市千波町１９１８　茨城県民間保育協議会青年部広報委員会発行